

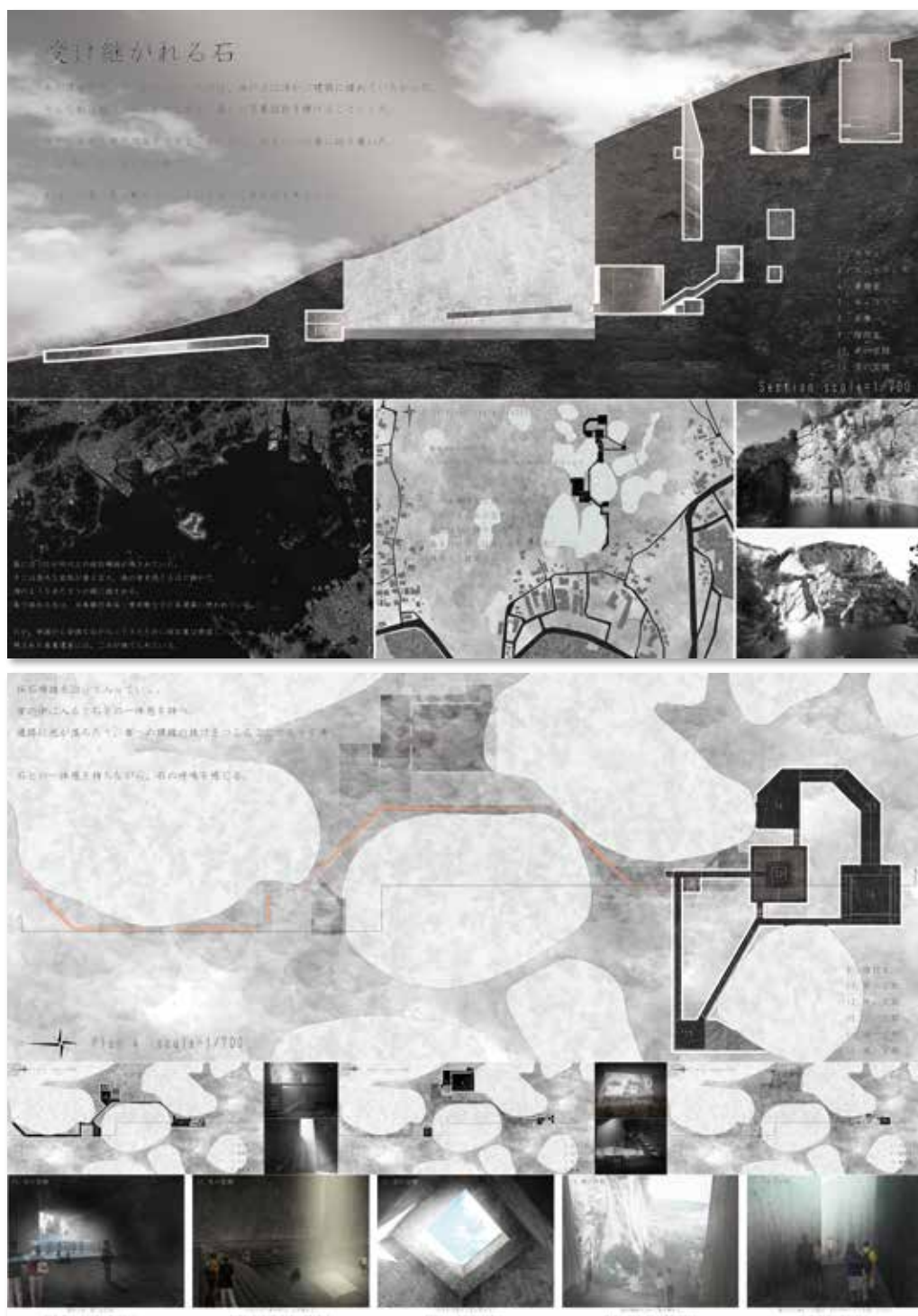
齋藤 範明

(さいとう のりあき)

日本大学
生産工学部
建築工学科



北木島と呼ばれる島が瀬戸内海に浮ぶ。島で採れる北木石は、日本銀行本店や大阪城桜門や東京駅等の名建築に使われている。だが、中国から安価な石が入ってきたため、採石業は衰退し、120か所以上の採石場が残された。採石場跡は、高大な岩肌がそびえ立ち、風の音を感じるほど静かで、湖のような水たまりが緑に囲まれる。この産業遺産で感じる自然（水・光・風・空・緑）と呼応する石の空間を計画する。自然の美しさ、迫力ある風景を残し、採石場跡を縫うように設計する。人々が集まる場所として、カフェ・多目的ホールを設け、他島や本島の人との交流を楽しむ。島民は石を誇りに想い続け、島を訪れる人は島の魅力を発見し、体感する建築である。



講評

採石した大きな坑は、産業廃棄物等の捨て場になるような場所である。島を訪れた提案者が見たものもゴミ捨て場であった。”受け継がれる石”は石の美しさ、採掘跡が造る景觀に魅せられ、島の魅力を伝える美術館として活用を提案した作品である。採石場は岡山県笠岡市北木島にあり、北木島産の良質の花崗岩は、大阪城再築（1629年）の石垣に使われて以後”北木みかげ石”として、靖国神社の大鳥居をはじめ、日本銀行本社や旧明治生命保険本社ビル等、日本の歴史的建造物に使われている。点在する採石坑を繋ぐように新たに掘削し、北木石の美しさを演出する水・光・空の空間、採石場から見る野外の緑・風の空間に加え、ギャラリーやカフェ・レストラン等の美術館として整備している。廃棄物処理場となりかねない採石跡地に着目し、美術館としての再利用計画を立案したアイディアや独創性等、大変評価できる作品である。一方、そのアイディアが明確に伝わってこないのは、建築計画としての設計や表現力の物足りなさによる。この作品に見られるような問題意識や独創性を持ち、設計力を磨き、建築家としてのみならず、文化財や産業遺産の修復や保存の道でも活躍されることを期待しています。

(審査委員：古川 洋)

